

# マケドニア滞在記

## はじめての海外一人旅

伊藤 優子

### 1. はじめに

社会人学生として北海道大学主催「国際フェロー／バルカン・プログラム」に応募し、NPO 法人日本救援行動センター（以下 JARC）スコピエ事務所のアレンジメントにより、マケドニアにおいて研修機会を得ることができた。

2011 年 2 月上旬成田からウィーン経由でマケドニアの首都スコピエに入り、ストゥルーガ、クマノボ(図-1)と活動拠点を移しながら約 2 週間マケドニアに滞在した。公共政策を研究テーマとしているので、研修先は、JARC はじめ、JICA・行政機関・NPO・企業・大学・小学校・教育センター・活動支援センターなどとした。

本稿では、研究内容そのものではなく、研修先のヒアリング調査やホームステイ先の家族から聞き取ったマケドニアの多様な民族問題についてご紹介したい。



図-1 マケドニアの主要都市

### 2. マケドニア

マケドニア共和国(通称マケドニア)は、東ヨーロッパのバルカン半島に位置し、1991 年旧ユーゴスラビア連邦から独立した国であり、南はギリシャ、東はブルガリア、北はセルビアとコソボ、西はアルバニアに囲まれた内陸国である。

スコピエ・アレクサンダー大王空港に降り立つと、「Invest in Macedonia」が目飛び込んできた。面積は九州の 1/3 程度、人口は札幌市よりちょっと多いくらいで、GDP は世界 174 位、失業率も 3 割を超える小国が、外国からの投資を受け入れ、EU 加盟に向けて積極的なアプローチを行っているようだ。旧社会主義国であるマケドニアが、今後どのように経済発展を成し遂げようとしているのかも大変興味深いところである。

マケドニアの基礎情報は、表-1 のとおりである。

#### (1) 家庭の経済事情

失業率 33%の国で出会った大学生たちは「マケ

表-1 マケドニアの基本情報

面積	2万5,713 km <sup>2</sup>
人口	202万人(2008年)
GDP	9,157ドル/人
失業率	33% (IMF、2009年)
主要輸出品目	食品、飲料(ワインなど)、繊維、鉄鋼、鉄など
主要輸入品目	機械、自動車、化学製品、燃料、食品など
政治体制	社会主義体制から共和制に移行
民族	マケドニア人：アルバニア人：トルコ人：その他(ロマン人、セルビア人など) = 64：25：4：7
宗教	マケドニア正教、イスラム教
言語	公用語：マケドニア語、アルバニア語 他 文字：キリル文字・ラテン文字

ドニアを出たい」と口にする。40代の小学校の校長先生の月収は400ユーロ(5万円に満たない)。ビジネス系大学の20代の職員は200ユーロ。収入は日本の1/10でも、物価は70%程度というのが実感である。それに対し、乗用車の広告が堂々10,000ユーロと表示されているのは、理解不可能である。

家庭の豊かさは一概に評価できないが、外壁は壊れ、水漏れのひどい家屋でも、自家用車(中古車)もパソコンも液晶テレビも個人用携帯電話もある。市街地は建設ラッシュであるが(写真-1)、道路・水道等のインフラの整備状況はあまりにもお粗末で、EU加盟を目指している国とは思えない状態である。

しかし、インターネットの環境は日本より進んでいることは確かだ。家庭では、無線LANで小学生の子供たちがface bookで友達づくり(写真-2)、おばあちゃんは孫とネットショッピングを当たり前のように楽しんでいる。ホームステイ先の主人はヨーロッパ各国を移動するトラック運転手で、家族が一同に会するのは年に2、3回。そこで、毎晩10時になると、夫妻はSkypeで語り合う。また、街中ではWi-Fiが充実していて、喫茶店に入るとインターネットは容易に使える。

今は、ただ貪欲に新しいものを取り入れようとする個人消費の様子が伺える。

### (2) マケドニア人とアルバニア人

現在、マケドニア人とアルバニア人構成は、64：25であるが、アルバニア人は3割を超える勢いで流入してきている。宗教の違いは、学校や病院にもマケドニア系とアルバニア系の分裂を生んでいる。ホームステイ先のマケドニア系大学生は、アルバニア系とは明らかに距離を置いている。滞在中にも、スコピエの博物館の建設を巡り、両者の間で暴動があった。武器が拳と礫であったことが、救いのような気もする。

### (3) ロマ人(ジプシー)

郊外に、ロマと呼ばれるジプシーの集落がある。



写真-1 マケドニアの建設ラッシュ

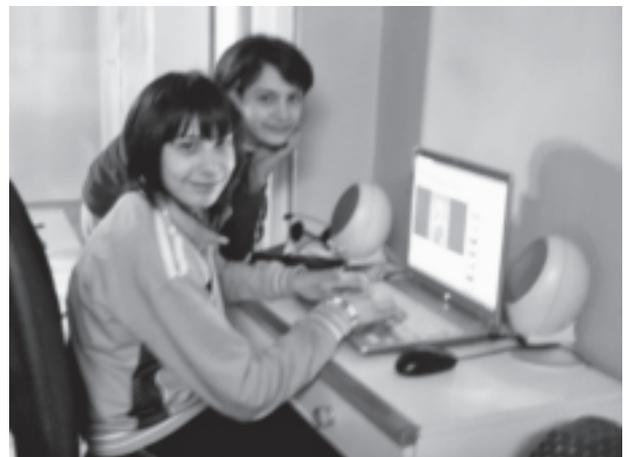


写真-2 face bookを更新するマケドニアの小学生

通りに面したバザールには、ナイキもバーバリーもキティちゃんも登場して賑わっている。黒い瞳が見つめるだけなのに、ここでは、カメラのシャッターを切ることができなかった。

通りから一歩足を踏み入れると、混沌とした住宅街がある。決して、豊かではないことが一目でわかる。壊れかけた家屋が立ち並ぶ中に、新築の家屋が人目を引く(写真-3、写真-4)。国営放送で観光プロモーションに関わったことが、国の中枢に近づくことになり、それが富に繋がったと説明を受けた。

## 3. 首都スコピエ

スコピエはマケドニア北部のヴァルダル川(国内最長の河川で、ギリシャ国境を越えて、エーゲ海に注ぐ)の両岸沿いに拓け、国民の3分の1が住む国内最大の都市である。ヴァルダル川に架けられたト



写真-3 ロマ人の一般住宅



写真-5 ヴァルダル川に架かるトルコ橋



写真-4 ロマ人の国営放送に携わる人の住宅



写真-6 丹下健三の設計によるスコピエ駅

ルコ橋は歩行者専用の石橋で、スコピエ観光の中心的存在であり、これを挟んで、新市街地と旧市街地に分かれる(写真-5)。

旧市街地には、モスクが点在し、毎朝5時になると拡声器を使った祈りが町中に響く。ここには、ロマ(ジプシー)の子供たち、黒いスカーフで頭を覆った女性たち、頭の上に小さなイスラム帽子を乗せた男性など多様な人種が生活している。興味のある街であるが、一人で歩くにはちょっと勇気がいる。

新市街では、マケドニア広場を中心に、高層ビルが建ち並び、SONYの看板も見える。街中では、トヨタ・スズキの中古車を見かける。

### (1) 丹下健三

1963年首都スコピエは大地震に見舞われ、多大な被害を被った。その復興を担ったのが、日本の建

築家丹下健三である。1966年から72年にかけて丹下健三チームの都市設計による再開発事業「スコピエ計画1695」が行われ、ビルの立ち並ぶ近代都市へと生まれ変わった。この時期、1970年大阪万国博覧会で総合プロデューサーを務めていたのも丹下健三である。万博の影響を受けたと思われる近未来のビルのような建物がスコピエに存在する(写真-6)。

### (3) マザー・テレサ

スコピエはマザー・テレサの生まれ故郷である。カトリックの修道女として、1997年に没するまで貧者救済の活動に生涯を捧げ、ノーベル平和賞を受賞しており、新市街地には手を合わせて祈るマザー・テレサの立像もある(写真-7)。

案内をしてくれたマケドニア人は、「テレサはクリ



写真-7 手を合わせて祈るマザー・テレサの立像



写真-8 オフリド湖に注ぐ雪解けの豊富な水

スチャンネームで、彼女はアルバニア人だから…」と付け加えることを忘れなかった。

#### 4. ストゥルーガ

マケドニア第1の観光都市オフリドに隣接する街は、オフリド湖に面した水量の豊富なリゾート地である(写真-8)。行政機関は観光都市を目指している。その核となるのが、四つ星ホテル「HOTEL DAIN」で、体制が旧社会主義から移行したことにより、ホテルの経営も大きく変化し、積極的に観光誘致に取り組んでいる。



写真9 マケドニア系小学校のワークショップ

#### 5. クマノボ

クマノボは、マケドニアの北部に位置し、セルビアやコソボに近い。マケドニアからコソボに入国するのはいいが、間違ってもセルビアからコソボに入るなという話は、何度か聞かされた。そのとおり、マケドニア人とアルバニア人の日常的な反目や争いは絶えない。それが JICA や JARC の最重要課題となっている。

民族融和の取り組み事例として、JARC の活動を紹介する。事務局は、日本人2名とマケドニア人1名で運営されている。

JARC の活動の一つに、地域の小学生が定期的に行っている清掃や植林がある。この上部組織である JCCP (NPO 法人 日本紛争予防センター) が JARC にアウトソーシングしている事業である。当然ながら、JCCP は植林面積・植林本数・植林に参

加した人数などに活動の成果を求める。

でも、本来の目的は「マケドニア人とアルバニア人がお互いを知り、仲良くなること」であり、植林はツールでしかないという。面積・本数・人数は可視化できても、本当の目的は見えにくいところにある。高校生くらいになると、互いの嫌悪感を隠そうとせず、それが暴力に繋がることもある。だから、小学生から両民族の交流を図ることが必要だという。はじめは、解け合おうとしない子供たち。事務局が考えたのが、交互に学校を訪問して行う月1回のワークショップ(写真9)。歌を歌ったり、折り紙をしたり…そんな取り組みを重ねている。しかし、2グループに別れてしまっただけでは仲良くなるチャンスはない。そこで、色違いTシャツを2種類用意し、好きな色を選ばせる。ワークショップがはじまると、色ごとのグループを作ると、マケドニア人とアルバ

ニア人が混ざって作業をすることになる。

そして、ワークショップの後にアンケート調査を行う。その結果は、最初は大嫌いだった隣人、それがワークショップを重ねる毎に「話しかけてみようかな」「友達になってもいいかな」…「結婚してもいいかな」と具体化してくる。

民族融和の取り組みは、このようにじっくり時間をかけるしかないようだ。

## 番外編／はじめての海外一人旅

スコピエでの研修終了後、一人帰国する事となった。ここからが、国際学生証とユースホステルの会員証を持った「はじめての海外一人旅」のはじまりである。ここでも、インターネットが旅行をサポートしてくれた。

### 1. オフリド(マケドニア)

マケドニアの観光地といえば、オフリド。オフリドはアルバニア国境近く、マケドニア南西部のオフリド湖畔に拓けた町で、中世の城壁を挟んで、湖を見下ろす高台の旧市街と、谷間にある新市街に分かれている(写真10)。また、かつての首都でもある。

人口6万人余りの小都市だが、10世紀のサミュエル要塞、11世紀の聖ソフィア教会、オスマン帝国時代のモスクなど歴史的な建造物が数多く残り、UNESCOの世界遺産に登録されている(写真11)。保存状態は様々だが、モザイク画、フラスコ画、イコンを見ることができる(写真12)。



写真10 新旧市街地分けるサミュエル要塞



写真11 オフリド湖に突き出た聖ヨハネ・カネヨ協会



写真12 フラスコ画とイコン

### 2. ウィーン(オーストリア)

ウィーン経由でマケドニアに出入国したため、深夜や早朝の市内観光になってしまったが、CAT(高速鉄道)、Sバーン(近郊列車)、Uバーン(地下鉄)、トラムなどを乗り継いで、足早にウィーン市内を闊歩した。

ウィーン市庁舎では、前庭がスケートリンクとして一般公開され、市民がスケートを楽しんでいた。リンクはライトアップされ、アップテンポの音楽が流れ、リンクの外側にはファストフード店が並び快適な空間が、深夜の街中にあった(写真13)。市庁舎前では年中イベントが催されている。

### 3. ソフィア(ブルガリア)

学生時代に読んだ五木寛之「ソフィアの秋」に誘われて、ソフィアに向かった。国際間バス、ホテルと



写真13 ウィーン市庁舎前の冬のイベント

らに驚いたのは、その情報が次々と利用者によって更新されていること。ホストにも、「さすが、日本人だね」と、さらに日本人は施設の使い方も綺麗で、対応も良いので、ホテルスタッフの研修では日本人のマナーを参考にしているとも言われた。

参考文献

- 1) 地球の歩き方 中欧、ダイヤモンド社、'11 ~ '12
- 2) 丹下健三チーム：特集 建築からアーバンデザインへスコーピエ計画、新建築、1967

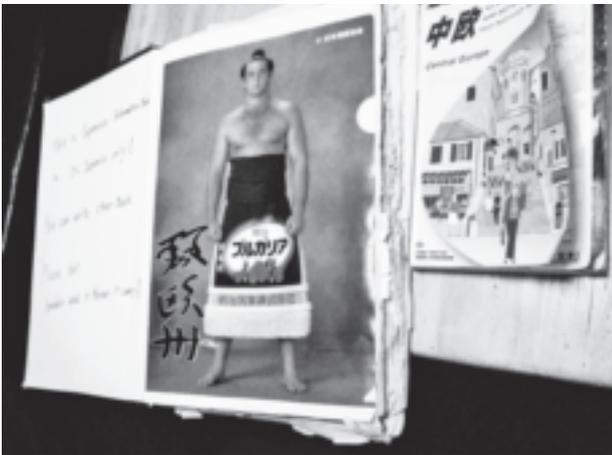


写真14 ユースホステルの日本人連絡帳

送迎バスの予約も変更も、移動先のインターネットでOK。

宿泊したユースホステル「ホステル・モステル」は、世界のユースホステルの人気ランキングで五指に入ると利用者に教えてもらった。さらに、拙い英語で情報収集すると、長期滞在者が多いことも知った。8人用ドミトリーであれば、夕食つきで13ユーロ。また、スタッフは明るく、きびきびして楽しそうに働いている。利用者は、ロビーに配置されたパソコン、雑誌、ビリヤードなどの遊具などで思い思いの時間を過ごす。必見は、スタッフから手渡された日本人の連絡帳だ。表紙をめくると、何故か琴欧州(写真14)。ソフィア市内だけでなく、ブルガリアに入るまでの世界情報が事細かに書かれている。紙面をレイアウトし、MAP・表・グラフ、定規やカラーマーカーを駆使した表現力も見事である。さ

伊藤 優子 (いとう ゆうこ)

技術士(建設/総合技術監理部門)

社団法人 北海道開発技術センター

